

2023年1月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2022年12月1日

上場会社名 ピープル株式会社
 コード番号 7865 URL <https://www.people-kk.co.jp>
 代表者 (役職名) 取締役兼代表執行役
 問合せ先責任者 (役職名) IR担当
 四半期報告書提出予定日 2022年12月2日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 (氏名) 桐渕 真人
 (氏名) 飛田 留美子
 TEL 03-3862-2768

(百万円未満四捨五入)

1. 2023年1月期第3四半期の業績(2022年1月21日～2022年10月20日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年1月期第3四半期	6,303	75.3	606	149.5	596	146.3	413	146.7
2022年1月期第3四半期	3,596	—	243	—	242	—	168	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年1月期第3四半期	94.48	—
2022年1月期第3四半期	38.29	—

(注)1.当社は、2021年1月期第3四半期は連結業績を開示しておりましたが、2022年1月期第1四半期より非連結での業績を開示しております。そのため2022年1月期第3四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。
 2.第1四半期会計期間の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しており、2023年1月期第3四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年1月期第3四半期	2,873	2,402	83.6	549.05
2022年1月期	2,785	2,311	83.0	528.40

(参考)自己資本 2023年1月期第3四半期 2,402百万円 2022年1月期 2,311百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年1月期	—	0.00	—	78.00	78.00
2023年1月期	—	0.00	—	—	—
2023年1月期(予想)	—	—	—	—	—

(注)2023年1月期の配当につきましては、通期業績見通しと連動して勘案する方針でありますため、年末商戦状況を見極めた上で期末配当予想を発表させていただきます。

3. 2023年1月期の業績予想(2022年1月21日～2023年1月20日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,342	33.9	475	△7.0	460	△7.3	317	△7.7	72.51

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

(注)当社の通期業績は、年末商戦期間(10～12月)の業績に大きく左右されます。本来通期業績予想を掲げるべきであります。このような玩具市場の特性に鑑み、直近で見通せる次期四半期の予想を掲げさせていただきます。次期四半期は第4四半期となることから、ここに新たに当期通期での予想を掲げております。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年1月期3Q	4,437,500 株	2022年1月期	4,437,500 株
② 期末自己株式数	2023年1月期3Q	63,352 株	2022年1月期	63,279 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2023年1月期3Q	4,374,183 株	2022年1月期3Q	4,374,221 株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
【第3四半期累計期間】	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(会計方針の変更等)	6
(セグメント情報等)	6
3. 補足情報	7
カテゴリー別販売の状況	7
①第3四半期累計期間売上高	7
②新発売商品及び主なりニューアル商品	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

当社は、第1四半期会計期間の期首より、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しております。詳細は、「2. 四半期財務諸表及び主な注記(3) 四半期財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更等)」に記載のとおりであります。なお、前第3四半期累計期間及び前第3四半期会計期間との会計基準が異なるため、以下文中の売上高前年同期間比につきましては、参考として記載しております。

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けながらも、行動制限の緩和等により人流が戻り始め、経済活動が徐々に正常化に向かう動きがみられております。一方、急速な円安進行や原油高による材料やサービスの価格上昇等が、国内経済に及ぼす影響も顕在化してきました。

当社をとりまく環境においては、米国、国内、それぞれの理由により非常に厳しい市場動向となりました。

最初に、米国の状況です。

玩具業界にかかわらず、急激な物価上昇により、消費者は高額商品を買控えの傾向が顕著に出ております。当社商品「Magna-Tilesシリーズ」も8月度をピークとして前年を大幅に上回る数量の出荷が続きましたが、このような市場の影響を受け、しだいにシリーズの中でも高額品の売れ行きが鈍り、低額品に偏りました。これにより、代理店や量販店の思惑によって買い込まれた商品在庫の消化が想定より遅れており、注文の再開には相当な時間を要すことが見込まれてまいりました。

次に国内の状況です。

消費の傾向も玩具遊具等から外出や飲食に移る傾向となり、玩具市場では、年末に向けても商戦が活性化するようなニュース性ある商品もほとんどなく低迷状況となりました。

当社におきましては、主力の乳児・知育玩具カテゴリーを中心に既存の定番品が底堅く、市場全体の中では比較的好調な推移となりました。一方、自転車類において、当社商品「いきなり自転車」12インチ、14インチの2車種において、お子様が後輪ギア付近で手指を挟まれてお怪我されたことに伴い、当該車種について一時販売を休止し、安全性を高める補充部品の提供へ移行することから、当第3四半期売上高への影響が生じております。

この結果、国内販売・海外販売総合で当第3四半期累計期間の売上高は、63億3百万円(前年同期間売上比75.3%増)となりました。

利益面では、国内販売向け輸入仕入については円安影響を大きく受け、売上原価の上昇が売上総利益を圧迫しました。海外製造のビジネスモデルを持つ当社にとって、円安の影響は海外販売の為替差益と、国内販売の為替差損を合わせますと、為替差損の方が大きく生じる状況にあります。経費では、自転車のお怪我対応に伴う補助部品の製造や購入者様への通知、再販に向けた諸費用(現時点における総額見通し約25百万円)のうち3百万円が当第3四半期に発生いたしました。

この結果、当第3四半期累計期間の営業利益は6億6百万円(前年同期間比149.5%増)となり、経常利益は5億96百万円(前年同期間比146.3%増)、四半期純利益は4億13百万円(前年同期間比146.7%増)となりました。

(パーパス制定後の企業活動の進捗)

当社は4月に新たな経営方針としてパーパス「子どもの好奇心が、はじける瞬間をつくりたい!」を制定しました。これは当社の強みを最大限に発揮する新商品・新事業の研究開発にリソースを集中し、収益性を根本的に改善していくための指針となります。

具体的な課題への落とし込み、社員の行動指針の策定などを同時進行で協議を重ねております。

活動としましては、企業としての認知を高め、外部の協力者を得ることを目標に、企業活動そのものを外部に向けてメディアやSNSを通じた発信をしております。(当社発信のnote URL: https://note.com/people_pr/)

また、社内では、パーパスを主軸とした新規事業発案促進のため、企画部門のみならず管理部門等も含めた社員全員を対象に、新事業アイデア一斉提案の場を設ける活動を始めました。

※以下、第2四半期時にお知らせした事項を含みます。

- ・広報チームを立ち上げ、メディアやSNSを用いた情報発信を始めました。
(当社発信のnote URL https://note.com/people_pr/)
すでにいくつかの取材のお申し込みや、協業のお申し出をいただいております、手応えを感じています。
- ・おもちゃとジェンダーをテーマとした活動に着手しました。
(<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000132.000045493.html>)
- ・パーパス実現のため、社員とともに「行動指針」策定のためのワークショップを継続的に行っています。
- ・パーパスを具体的な事業として実現するため、全社を挙げて新事業・新商品アイデア提案を、コンペ形式で行う「P-1グランプリ」の第1回を開催しました。上位は事業具体化に向けてプロジェクトをスタートしていきます。
- ・リスク管理チームを立ち上げ、当社を取り巻く優先的なリスクをピックアップ、具体的な管理体制の構築に進んでおります。
- ・内部監査体制を一新し、新たな内部監査チームを発足しました。コロナ禍で働き方が一変したことから、現状に即した規程の改定から着手し、ガバナンス強化を目指してまいります。

(カテゴリー別の概況) ※7ページの3. 補足情報をご参照ください。

・海外販売

前述のとおり、主力の米国向け「Magna-Tilesシリーズ」は先行した流通期待により、年末年始に向けた在庫補充を当第3四半期までに完了したことから、前年同期比較で大幅な売上増となりました。米国以外のアジア向け等の販売につきましては、中国では「ゼロコロナ政策」による一部地域のロックダウン等、消費回復も一進一退の様子が窺え、当社売上高もアジア向け全体では前年同期間並みの推移にとどまりました。

- ・乳児・知育玩具

当カテゴリーでは、国内販売では新発売の『ピタゴラスBASIC知育いっぱい！ボールコースターサウンド』が好調に推移している「ピタゴラスシリーズ」や、定番品の「やりたい放題シリーズ」が底堅く、また上半期に一部値上げを実施したベビー玩具類や低調だった「お米シリーズ」もしだいに売上が回復に向かい始めました。

- ・ドール・メイキングトイ（旧女兒玩具）

お人形シリーズの低迷が続く中、DIY玩具の「ねじハピシリーズ」が一定の人気を保てており、期間限定品として発売した「すみっこぐらしワールドDIYセット」は予定の年内での完売が見込まれております。

- ・遊具・乗り物

当カテゴリーは、コロナ禍では巣ごもり需要による売上増が顕著でしたが、当期は消費の傾向の変化により苦戦を強いられております。また、前述のとおり、自転車シリーズの中で一部製品リコールに伴う販売休止も売上に影響しました。

- ・その他（育児・家具）

育児用品では、上半期に続きお風呂用品「ラッコハグ」が新色（ソフトアプリコット）も人気で、家具の「テディハグシリーズ」とともに当カテゴリーは一定の売上を保てております。

(2) 財政状態に関する説明

（資産、負債及び純資産の状況）

当第3四半期会計期間末における資産合計は、前事業年度末から88百万円増加の28億73百万円となりました。資産の部では、主に、年末商戦に向けた仕入の増加等で商品が増加したことや金型等固定資産の投資に伴い、流動資産、固定資産ともに前事業年度末から増加しました。

負債では、流動負債で主に仕入に伴う支払債務の増加の一方、未払法人税等やその他に含まれる前受金の減少等により、負債合計で前事業年度末から3百万円減少し、4億71百万円となりました。

純資産合計は、四半期純利益計上の一方、配当支払等により、前事業年度末より90百万円増加し24億2百万円となり、結果、自己資本比率は83.6%となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

（第4四半期および通期業績予測）

次第4四半期会計期間（2022年10月21日～2023年1月20日）は、海外販売は、主力の米国向け「Magna-Tiles」が前年同期間においてはコロナ禍による出港および着荷遅延による欠品により商機を逸したことを踏まえ、当期は期初から流通の消費期待による拡販施策と年末商戦睨みの欠品対策とが相まって、すでに第3四半期までの段階で年末分までの出荷を終えました。消費動向によっては第4四半期にも若干の追加オーダーが期待されましたが、米国でも物価高に加え消費の傾向がレジャーや飲食に偏る傾向で、ここきて主力の大手量販店においては集客のためセール等での在庫減らしを図る等、年末年始の消費予想も下方に修正し始めた様子が窺えます。代理店からは、「Magna-Tilesシリーズ」についても追加オーダー検討が見直され、次期年初以降の販売も現在の流通在庫で賄える見通しである旨を申し出てきております。それにより、第4四半期会計期間の海外販売売上に つきましては、アジア向け乳幼児玩具売上を一定数見込むものの、主力の米国向け売上の大幅減により前年同期間に対し8割減の見通しとなりました。

国内販売は、玩具部門が市場全体で低迷が予想される当年末商戦のなかで、乳児知育玩具の定番品や人気のメイキングトイ等で一定の下支えは見込まれるものの、自転車部門では、いきなり自転車の再販に一定時間を要することが影響し、国内販売売上高は前年同期間を2割程下回ると見ております。従いまして、第4四半期会計期間（2022年10月21日～2023年1月20日）の売上高は、国内海外総合で前年同期間比45%減の10億39百万円を予想しております。

利益面につきましては、為替円安が輸入仕入決済に直接影響し大幅な原価高となり、一部商品の販売価格の値上げ対策では円の下げ幅に対しては一向に原価の改善には及ばず、第4四半期の売上総利益は非常に厳しい見通しをしております。既存品や既に市場に同品種が普及している玩具・乗り物分野では、値上げも一定の範囲でしか実施できず、利益幅の改善は抜本的な改革が必要と捉えております。そのため、再来期以降の実現を目標に、利益改善対策の一つとして新事業への取り組みを具体化して参ります。すでに第3四半期において新事業企画を社内提案からパーパスに沿った案件複数件を選択しており、今後一定の投資を行って新規分野への参入を試みることにいたしました。第4四半期にはそれら複数件の案件の研究開発に伴い一定の先行投資費用が発生する予定です。それにより、経費合計では、第3四半期に生じた「いきなり自転車」のリコール・再販に伴う費用約22百万円の発生を含み、前年同期間を3割程上回る見通しです。

以上のことから、第4四半期会計期間では売上および利益ともに大幅に前年同期間を下回りながら、通期（2022年1月21日～2023年1月20日）では、売上高は73億42百万円の前期比33.9%増、営業利益は4億75百万円の前期比7.0%減、経常利益は4億60百万円の前期比7.3%減、当期純利益は3億17百万円の前期比7.7%減となる見通しです。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年1月20日)	当第3四半期会計期間 (2022年10月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,304,925	1,237,751
受取手形及び売掛金	477,494	326,480
商品	397,436	747,186
原材料	6,073	6,618
その他	237,374	173,267
貸倒引当金	△1,373	△1,149
流動資産合計	2,421,930	2,490,153
固定資産		
有形固定資産	105,068	114,316
無形固定資産	32,815	27,896
投資その他の資産	225,335	240,467
固定資産合計	363,218	382,679
資産合計	2,785,147	2,872,832
負債の部		
流動負債		
買掛金	100,094	181,035
未払法人税等	154,316	113,170
その他	219,392	177,019
流動負債合計	473,802	471,224
負債合計	473,802	471,224
純資産の部		
株主資本		
資本金	238,800	238,800
資本剰余金	162,705	162,705
利益剰余金	1,864,130	1,936,217
自己株式	△34,267	△34,362
株主資本合計	2,231,369	2,303,361
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	79,977	98,247
評価・換算差額等合計	79,977	98,247
純資産合計	2,311,346	2,401,608
負債純資産合計	2,785,147	2,872,832

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2021年1月21日 至 2021年10月20日)	当第3四半期累計期間 (自 2022年1月21日 至 2022年10月20日)
売上高	3,595,814	6,302,882
売上原価	2,390,409	4,783,403
売上総利益	1,205,405	1,519,479
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	142,693	130,755
販売促進費	82,625	54,249
運賃	133,246	130,395
役員報酬	52,351	52,351
給料及び手当	112,034	111,807
退職給付費用	12,159	13,022
支払手数料	86,224	114,629
研究開発費	166,549	161,153
その他	174,612	145,003
販売費及び一般管理費合計	962,492	913,364
営業利益	242,912	606,115
営業外収益		
受取利息	11	187
受取配当金	1,420	2,933
その他	327	472
営業外収益合計	1,758	3,592
営業外費用		
為替差損	2,729	13,702
その他	0	17
営業外費用合計	2,729	13,718
経常利益	241,941	595,989
税引前四半期純利益	241,941	595,989
法人税、住民税及び事業税	60,896	179,670
法人税等調整額	13,535	3,043
法人税等合計	74,430	182,713
四半期純利益	167,511	413,276

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下、「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスに対する支配を顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

収益認識会計基準等の適用による主な変更点は、次のとおりであります。

・顧客に支払われる対価に係る収益認識

販売促進費として販売費及び一般管理費に計上していた、顧客に支払われる対価の一部を、売上高から控除して表示する方法に変更しております。

なお、「収益認識に関する会計基準の適用指針」第98項に定める代替的な取扱いを適用し、商品又は製品の国内販売において、出荷時から当該商品又は製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の間である場合は、出荷時に収益を認識しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第3四半期累計期間の売上高は4,081千円減少、販売費及び一般管理費は4,081千円減少しましたが、営業利益、経常利益及び税引前四半期純利益に与える影響はありません。また、利益剰余金期首残高に与える影響もありません。

なお、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従い、前第2四半期累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下、「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

当社は、玩具及び自転車等乗り物類の企画・販売を事業とする単一セグメントであり重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

3. 補足情報

カテゴリー別販売の状況

①第3四半期累計期間売上高の前年同期間対比

(単位 千円)

カテゴリー名	2022年1月期 第3四半期 (自2021年1月21日 至2021年10月20日)	2023年1月期 第3四半期 (自2022年1月21日 至2022年10月20日)	前年同期比(注2) (%)
乳児・知育玩具	1,023,678	1,020,882	99.7
ドール・メイキングトイ(注1)	222,433	195,638	88.0
遊具・乗り物	520,902	371,582	71.3
その他(育児・家具)	123,771	135,921	109.8
海外販売	1,705,030	4,578,859	268.6
合計	3,595,814	6,302,882	175.3

(注1) 旧女兒玩具

(注2) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)を第1四半期会計期間の期首よりを適用しており、当該会計基準等を適用した後の数値となっておりますが、影響額が軽微であることから前年同期間売上高との比較比率を参考値として記載しております。

②新発売商品及び主なりニューアル商品

(第3四半期累計期間発売)

カテゴリー名	商品名	標準小売価格 (税込)
乳児・知育玩具	ピタゴラスシリーズ「ピタゴラスWORLD ダイナミックダイナソー」	¥9,680
	ピタゴラスシリーズ「ひらめきのプレート+(プラス)」	¥14,300
	ピタゴラスシリーズ「ピタゴラスBASIC知育いっぱい! ボールコースターサウンド」	¥8,250
	「水と空気の4STEP知育マット」	¥4,400
	「五感シゲキット」	¥3,300
ドール・メイキングトイ	ドール「クッピーラムネぼぼちゃん」	¥5,500
	ドール「ぼぼちゃん専用 クッピーラムネコーデセット」	¥1,760
	ドール「「ぼぼちゃんデビューパーフェクトセット」」	¥12,100
	「ねじハピ デコ&カスタムDIYセット」	¥4,950
	「はじめてのねじハピ おうちデコDIYセット」	¥4,950
	「すみっこぐらしワールドDIYセット」	¥9,350
遊具・乗り物	「ケッターサイクルII」(12、14、16、18インチ 計7種)	各オープン価格
その他 (育児・家具)	「ラッコハグプラス ソフトアプリコット」	各オープン価格